

教育内容	専門分野Ⅱ 成人看護学	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	成人看護学概論	単位 1単位	ライフサイクルにおける成人期の特徴と発達課題を理解する。様々な個人の生活様式や多様な価値観の中で生活する成人期にある対象の健康問題を理解する。成人期における健康の保持増進・疾病予防の援助と看護の役割を理解する。成人保健の動向および看護の役割について理解する		
担当講師	富山 美加 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:7年以上	時間数 30時間			
教育目標	1	生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う			
	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	3	人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	成人と生活	対象理解:大人であること「各発達段階の特徴」 対象の生活	講義	基礎分野 心理学 哲学 教育学 文化社会学 人間関係論 マネジメント論 心と身体の健康 I
	2	成人各期の保健問題	大人の健康の状況「死因順位、部位別悪性新生物」 生活と健康をまもりはぐむシステム	講義 演習	基礎分野 心理学 哲学 教育学 文化社会学 人間関係論 マネジメント論 心と身体の健康 I
	3	生活と健康	健康日本21、健康増進法、がん対策基本法 トータル・ヘルスプロモーション・プラン		基礎分野 心理学 哲学 教育学 文化社会学 人間関係論 マネジメント論 心と身体の健康 I
	4	健康をはぐむ看護	健康生活をはぐむ看護とは 健康生活をはぐむ看護の場と活動 ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ	講義	専門基礎分野 治療論 I 治療論 II 保健医療論 公衆衛生学 関係法規 I 関係法規 II 社会福祉 I 社会福祉 II
	5	成人への看護アプローチの基本	大人の健康行動の捉え方と大人の健康行動を促進する看護アプローチ 成人教育学の特徴、大人の学習のプロセス、大人の学習への援助、行動変容を促す看護アプローチ	講義	専門基礎分野 治療論 I 治療論 II 保健医療論 公衆衛生学 関係法規 I 関係法規 II 社会福祉 I 社会福祉 II
	6	生活とストレス	健康バランスの構成要素 健康バランスに影響を及ぼす要因 生活行動がもたらす健康問題とその予防	講義	専門基礎分野 治療論 I 治療論 II 保健医療論 公衆衛生学 関係法規 I 関係法規 II 社会福祉 I 社会福祉 II
	7	健康生活の急激な破綻から	健康の急激な破綻	講義	専門基礎分野 治療論 I 治療論 II 保健医療論 公衆衛生学 関係法規 I 関係法規 II 社会福祉 I 社会福祉 II
	8	回復を促す看護	急激な健康破綻をきたした人の看護		専門基礎分野 治療論 I 治療論 II 保健医療論 公衆衛生学 関係法規 I 関係法規 II 社会福祉 I 社会福祉 II
	9	健康生活の慢性的な揺らぎの再調整促す看護	慢性的な健康状態の揺らぎと慢性病 慢性病を持ちながら生活していくうえでたえまない 取り組み・努力 セルフケア 慢性病との共存の過程を支える看護	講義	統合分野
	10				
	11	障害を持ちながらの生活と	障害を持つ人とリハビリテーション	講義	統合分野
	12	リハビリテーション	障害を持ち生活する人を支援する看護		統合分野
	13	人生の最期のときを支える看護	終末期医療の現状 終末期医療における3つの概念 人生の最期のときを過ごしている人の理解 人生の最期のときを支える看護	講義 グループワーク	統合分野
	14				
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 看護のための人間発達学				

教育内容	専門分野Ⅱ 成人看護学	時期	2年次	科目のねらい	
授業科目	成人援助論Ⅰ	単位	1単位	健康障害・機能障害をきたした健康レベルが急性期にある対象への看護を理解する (周手術期にある成人期の対象への看護 クリティカルケアを必要とする成人期の対象への看護)	クリ
担当講師	富山 美加 臨床経験:10年以上 教育経験:7年以上	時間数	30時間		
教育目標	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	3	人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
	5	社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	急性期における看護とは	急性期とは 急性期看護の対象と心身の特徴 治療の特徴と患者、家族への影響 代理意思決定支援	講義	基礎分野 心理学 人間工学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
	2	急性期から回復期の看護	侵襲に対する生体反応 創傷治癒過程とその看護 術後の看護合併症とその成り立ち、看護	講義 グループワーク	解剖生理学Ⅳ 看護形態機能学
	3	急性期から回復期の事例展開	急性心筋梗塞患者の看護(事例1) 包括的リハビリテーションをもとに急性期から回復期を考える	講義 グループワーク	専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ
	4	急性期の看護過程	周手術期にある患者の看護(事例2)	講義	解剖生理学Ⅳ
	5	急性期から回復期の事例展開	胃がんで手術を受ける患者の看護	講義	病態生理学総論
	6		情報収集 アセスメント(ゴードンの機能的健康パターン) 問題点の抽出、計画立案 実施・評価	グループワーク	治療論Ⅰ 治療論Ⅱ 治療論Ⅲ
	7		手術直後の患者の看護(フィジカルアセスメント) ・予測の視点を持った観察・アセスメント	演習 発表	病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ
	1	急性・重症患者の看護	緊急性と重症度のアセスメント	講義	臨床微生物学
	2		状態とその対応 心肺停止 気管内挿管時 急性中毒 食中毒 熱中症 感染症 外傷・熱傷・凍傷・骨折の応急処置		専門分野Ⅰ 共通看護技術Ⅰ
	1	周手術期の看護	術前の看護 ・手術療法の理解を促す援助 ・手術の意思決定への援助 ・術後合併症のリスクアセスメント	講義	専門分野Ⅱ 成人看護学概論 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ
	2		術中の看護 ・手術体位とその影響 ・手術方法・麻酔法による影響と援助 ・術中の安全管理	講義 演習	統合分野 医療安全 看護倫理
	3		術後の看護 ・術後の疼痛管理・合併症の予防 ・早期回復促進への援助 ・ボディイメージ変容への援助 ・機能障害と生活制限への援助	講義	
	15	終講試験	筆記試験		
	評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護(4): 周手術期看護 メディカ出版				

教育内容	専門分野Ⅱ 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい	
授業科目	成人援助論Ⅱ	単位 1単位	健康障害・機能障害をきたし健康レベルが慢性期、または終末期にある対象への看護を理解する	
担当講師	小林 理絵 看護師経験:7年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間		
教育目標	1 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う			
	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
	5 社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探求し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う			
学習内容	項目	内容	教授法	関連科目
	1 慢性期にある患者の看護	経過別看護とは 慢性期看護の特性 セルフマネジメント支援に必要な視点	講義	基礎分野 心理学 論理学 教育学
	2 慢性期にある対象理解	これまでの生活習慣および現在の疾患の経過を理解する	講義	人間工学
	3 (情報収集・アセスメント)	生活習慣をアセスメントするための視点	グループワーク	人間関係論
	4	原疾患の経過をアセスメントするための視点 セルフマネジメント能力のアセスメント 情報をカテゴリー化してアセスメント コアとなる情報・生活行動の情報とは		心と身体の健康Ⅰ
	5 慢性期にある対象の全体像の把握	入院前の生活が退院後に及ぼす影響はなにか	講義 グループワーク	専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ
	6 慢性期にある対象の看護問題の抽出	対象の弱み・強みを考えた問題		解剖生理学Ⅳ 治療論Ⅰ
	7 慢性期にある対象の看護計画	自己効力感 エンパワメント 成人学習理論 対象における教育・指導を考えるにあたって 必要な視点	講義 グループワーク	治療論Ⅱ 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ
	8 終末期にある対象の人生の	身体面のアセスメントの視点		
	9 最期の時を支える看護	(全身倦怠感・食欲不振・呼吸困難・がん性疼痛など)	講義	
	10	化学療法・放射線療法と看護	グループワーク	専門分野Ⅰ 看護学概論 共通看護技術Ⅰ
	11	心理面・社会面のアセスメントの視点 (死の受容過程) ケアリング 臨死期の看護		
	12	緩和ケアとは	講義	
	13	QOLの定義 QOLを高める援助		専門分野Ⅱ
	14	緩和ケアにおけるチーム医療		成人看護学概論 統合分野
15 終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院			

教育内容	専門分野Ⅱ 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	成人援助論Ⅲ	単位 1単位	呼吸機能障害・循環機能障害・腎機能障害をきたした成人期にある対象の看護を学ぶ		
担当講師	原田 雅美 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	循環器疾患をもつ対象の看護	大血管疾患と慢性動脈閉塞性疾患の看護	講義	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論
	2		不整脈疾患の看護		
	3		心筋梗塞の事例		
	4	循環機能障害を持つ対象の看護	虚血性失疾患		専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ
	5		心不全		
	6		心電図	演習	治療論Ⅰ 治療論Ⅱ
	1	呼吸機能障害を持つ対象の看護	呼吸機能障害を持つ対象の看護	講義	病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅳ 看護形態機能学
	2		人工呼吸器装着中の看護		
	3		肺がん患者の看護 検査・治療		専門分野Ⅰ 看護学概論 看護援助技術Ⅳ 看護援助技術Ⅴ
	4		慢性閉塞性肺疾患 患者の看護 気管支喘息 患者の看護		
	5		挿管患者の気管吸引	演習	専門分野Ⅱ 成人看護学概論
	1	腎機能障害を持つ対象の看護	慢性腎不全 機能障害の原因、症状、検査を受ける患者の看護	講義	統合分野
	2		血液透析治療を受ける患者の看護		
	3		腹膜透析治療、腎移植を受けた患者の看護		
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(9割)レポート(1割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 看護技術プラクティス 第3版(動画付き) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院				

教育内容	専門分野Ⅱ 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	成人援助論Ⅳ	単位 1単位	栄養摂取、代謝障害・排泄機能障害・内部環境調節障害・感染症をきたした成人期にある対象の看護を学ぶ		
担当講師	田中 友香 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	内分泌機能障害を持つ 対象の看護	内分泌機能障害をもつ患者の特徴 甲状腺機能障害をもつ患者の看護	講義	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論
	2	内部環境調節機能障害をもつ 対象の看護	糖尿病患者の看護	演習	専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ 治療論Ⅰ 治療論Ⅱ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ 看護形態機能学
	3		糖尿病患者の事例		
	4		ライフステージごとの糖尿病 血糖測定の実際		
	1	栄養代謝機能障害を持つ 対象の看護	栄養代謝機能障害のある患者の看護①		
	2		栄養代謝機能障害のある患者の看護②		
	3	消化吸収機能障害を持つ 対象の看護	消化吸収機能障害のある患者の看護①		
	4		消化吸収機能障害のある患者の看護②		
	5		消化吸収機能障害のある患者の看護③	専門分野Ⅰ 看護学概論	
	1	排泄機能障害を持つ 対象の看護	排泄障害を持つ対象の看護①	講義	専門分野Ⅱ 成人看護学概論
	2		排泄障害を持つ対象の看護②		
	1	身体防御機能障害を持つ 対象の看護	身体防御機能障害のある患者の看護①	講義	統合分野
	2		身体防御機能障害のある患者の看護②		
	3		身体防御機能障害のある患者の看護③		
15	終講試験		筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[4]	血液・造血器	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[5]	消化器	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[6]	内分泌・代謝	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[8]	腎・泌尿器	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[11]	アレルギー・膠原病・感染症	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[12]	皮膚	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[14]	耳鼻咽喉	医学書院

教育内容	専門分野Ⅱ 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	成人援助論Ⅴ	単位 1単位	脳、神経機能障害・感覚機能障害・運動機能障害・性、生殖機能障害をきたした成人期にある対象の看護を学ぶ		
担当講師	溝口 綾 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	脳・神経機能障害を持つ 対象の看護	急性期の患者の看護	講義	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論 心と身体の健康Ⅰ
	2		回復期の患者の看護		
	3		慢性期の患者の看護		
	4		症状・障がいを持つ患者の看護		
	5		高次脳機能障害の看護		
	6		病期に応じた脳腫瘍患者の看護		
	7		ギランバレー、ALS、パーキンソン患者の看護		
	1	運動機能障害を持つ 対象の看護	運動機能障害のある患者の看護①	講義	看護形態機能学
	2		運動機能障害のある患者の看護②		
	1	感覚機能障害のある 対象の看護	視覚障害のある患者の看護	講義	看護学概論 看護援助技術Ⅴ
	2		聴覚障害のある患者の看護		
	1	性・生殖機能障害を持つ 対象の看護	乳房 乳がんの手術を受ける患者の看護	講義	統合分野
	1		婦人科 腎疾患患者の看護		
	2		女性生殖器疾患患者の看護		
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]	脳・神経	医学書院		
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]	腎・泌尿器	医学書院		
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9]	女性生殖器	医学書院		
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]	運動器	医学書院		
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13]	眼	医学書院		
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14]	耳鼻咽喉	医学書院		
	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護	医学書院			

教育内容	専門分野Ⅱ 老年看護学	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	老年看護学概論	単位 1単位	老年看護の対象を理解し、老年看護の動向と機能と役割について理解する 近年の社会構造の変化を理解し、老年期における人々の保健・医療・福祉の 動向と対策について理解する		
担当講師	真島 久美子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	1	生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う			
	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	3	人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
	5	社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、障害にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	超高齢社会の統計学的輪郭	超高齢社会の現況	講義	基礎分野 心理学 哲学 文化社会学 教育学 人間関係論 心と身体の健康Ⅱ
	2	老年看護の対象理解	加齢に伴う変化と老化 恒常性を土台とした4つの力の変化 疾病をめぐる特徴	講義	
	3		加齢に伴う心理的側面の変化 知能 人格 創造性 セクシュアリティ	演習	
	4		加齢に伴う社会的側面の変化 高齢者が生きてきた時代背景とライフヒストリー 社会参加 高齢者のいる世帯 暮らし		専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ～Ⅳ 看護形態機能学 治療論Ⅰ～Ⅲ 保健医療論 公衆衛生学 社会福祉Ⅰ・Ⅱ 関係法規Ⅰ
	5		高齢者の定義と老年観 老年期の発達段階・発達課題	講義 講義	
	6		高齢者疑似体験	演習	
	7	老年看護における倫理的課題と 権利擁護	高齢者差別と虐待 権利擁護のための制度	講義	
	8	高齢社会における 保健医療福祉制度	高齢社会における保健医療福祉の動向 老人福祉法 老人保健法 介護保険法の目的と理念 制度の仕組みとサービス 地域包括ケア 地域包括支援センター 高齢者医療確保法 新オレンジプラン	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論 共通看護技術Ⅰ・Ⅱ 看護援助技術Ⅰ
	10	老年看護の特徴と役割	老年看護の特徴と役割 エンパワメント 意思決定 生活機能の最大限の回復 多職種連携 老年看護における理論・概念の活用	講義	専門分野Ⅱ 老年援助論Ⅰ～Ⅲ 成人看護学概論 成人援助論Ⅰ・Ⅱ 母性看護学概論 精神看護学概論
	11			講義	
	12	健康段階別の高齢者への援助	高齢者のヘルスプロモーション 介護保険施設における高齢者の看護 地域で治療・介護を必要とする高齢者と家族の看護 リスクマネジメント エンドオブライフケア	講義	統合分野 医療安全 在宅看護概論 看護の統合と実践 看護管理・看護倫理
	13	地域で生活する健康な 高齢者の理解	老人福祉センター 高齢者の社会参加の意義 地域で暮らしている高齢者 高齢者とのコミュニケーション プロセスレコード	演習	
	14				
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験 (9割) レポート(1割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患編 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 看護のための人間発達学 第4版 医学書院				

教育内容	専門分野Ⅱ 老年看護学	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	老年援助論Ⅰ	単位 1単位	老年期の特徴と疾病、症状、病態生理を理解し、おもな治療およびについて学ぶ		
担当講師	佐野 和美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	高齢者の特徴的な症状として 老年症候群	老化の生理と病態 老年症候群	講義	基礎分野 心理学 人間工学
	2	老年期の疾患とアセスメント	呼吸・循環器系の疾患と症状 感染症/尿失禁のアセスメント	講義	人間関係論 心と身体の健康Ⅰ
	3		消化器・代謝・内分泌系の疾患と症状 摂食と嚥下障害/脱水/低栄養と貧血のアセスメント (酸塩基平衡・浮腫・脱水)	講義	専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ
	4		腎泌尿器・血液系・皮膚疾患と症状 便・尿失禁のアセスメント/清潔の変調のアセスメント	講義	
	5		運動・免疫系・アレルギー・リウマチ性疾患と症状 ADL低下/廃用症候群/転倒転落のアセスメント	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論 看護援助技術Ⅲ 共通看護技術Ⅰ
	6		精神・神経系の疾患と症状(構音障害や失語症も含む) 老年期鬱/せん妄/認知機能低下/睡眠障害の アセスメント	講義	専門分野Ⅱ
	7	高齢者と薬	高齢者と薬 薬理学「薬が作用する仕組み(薬力学)参照」 腎毒性 高齢者の安全な薬物治療	講義	統合分野
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患編 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院				

教育内容	専門分野Ⅱ 老年看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	老年援助論Ⅱ	単位 1単位	高齢者特有の疾病や障害の特徴を理解し、経過の特徴に応じた健康の保持増進や回復への援助について学ぶ。検査・治療を受ける高齢者への看護についても学ぶ		
担当講師	栗岡 美千代 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	高齢者のヘルスアセスメント 健康逸脱からの回復を促す看護	身体に加齢変化とアセスメント 外皮系・感覚系・循環系・呼吸器系 症候のアセスメントと看護 発熱 痛み 掻痒 脱水 嘔吐 浮腫 倦怠感	講義	基礎分野 人間工学 人間関係論 心と身体健康Ⅱ
	2	治療を必要とする高齢者の看護	治療を必要とする高齢者の看護 入院治療・検査・薬物療法・手術療法	講義	専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ～Ⅳ 看護形態機能学 病態生理学総論 臨床微生物学 治療論Ⅰ～Ⅲ 病態と治療Ⅰ～Ⅴ
	3	高齢者のリハビリテーション	高齢者のリハビリテーションと看護 高齢者の自宅医療とエンドオブライフケア	講義	
	4	高齢者への日常生活援助	おむつ交換 ベッド上での陰部洗浄は、基礎へ移動) トイレでの排泄援助(車いすや杖でトイレまで/入浴介助)	演習	専門分野Ⅰ 看護学概論 看護援助技術Ⅲ 共通看護技術Ⅰ・Ⅱ 看護援助技術Ⅰ～Ⅴ 基礎統合演習
	5	身体疾患のある高齢者の看護ケア	骨折/骨粗鬆症/大腿骨頸部骨折	講義	専門分野Ⅱ 老年看護学概論 老年援助論Ⅰ・Ⅲ 成人看護学概論 成人援助論Ⅰ～Ⅴ 精神援助論Ⅰ・Ⅱ
	6		変形性関節症 感染症:インフルエンザ・肺炎 脳血管疾患:パーキンソン病 認知症 慢性閉塞性肺疾患 心不全 疥癬	GW発表	
	7	事例展開①	健康障害のある高齢患者の看護過程の展開	講義	
	8	入院加療が必要な老年期の対象と家族への援助	誤嚥性肺炎に罹患した対象への援助	演習	統合分野 医療安全 看護管理・看護倫理 看護の統合と実践
	9		ホリスティックな対象の理解と目標志向型思考		
	10		「コアとなる情報」「生活行動」の情報収集と解釈分析		
	11		対象の望む回復像と看護の焦点		
	12	事例①を用いた援助	誤嚥性肺炎でNGチューブや胃瘻挿入中の人への看護援助 口腔ケアも含む	講義 演習	
	13	事例①を用いた	「もてる力を活用した看護計画の実施」	シミュレーション 演習	
	14	シミュレーション演習Ⅱ			
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(7割),レポート・学習状況(3割:事例展開とシミュレーション演習) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患編 医学書院				

教育内容	専門分野Ⅱ 老年看護学	時期 2年次	科目のねらい	
授業科目	老年援助論Ⅲ	単位 1単位	多様な健康レベルにある老年期の対象とその家族を総合的にアセスメントし、対象に応じた看護を展開できる能力を養う	
担当講師	田中 さおり 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間		
教育目標	1 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う			
	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
	5 社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う			
回	項目	内容	教授法	関連科目
1	高齢者の特徴をいかした 看護過程の考え方	高齢者の特徴を踏まえた看護展開 「生活行動モデル」の概念・枠組みと活用方法	講義	基礎分野 論理学
2	高齢者の生活機能を整える看護	活動 基本動作と環境、転倒、廃用性症候群 アセスメントと看護 評価指標 麻痺のある対象の移乗動作、良肢位の保持 廃用性症候群予防の援助(自動・他動運動)/ ポジショニングも	講義 演習	心理学 人間工学 哲学 社会文化学 教育学 人間関係論
3	高齢者の生活機能を整える看護	食事・食生活 高齢者に特徴的な摂食嚥下機能と栄養状態の変調 食生活のアセスメントと支援、栄養ケア・マネジメント	講義	専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ～Ⅳ
4	高齢者の生活機能を整える看護	排泄 排泄障害の特徴 排泄のアセスメントと尊厳をまもる排泄ケア	講義	看護形態機能学 病態生理学総論 臨床微生物学
5	高齢者の生活機能を整える看護	清潔(身じたく) 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 清潔のアセスメントと援助	講義	治療論Ⅰ～Ⅲ 病態と治療Ⅰ～Ⅴ
6	高齢者の生活機能を整える看護	生活リズム(休息) 高齢者に特徴的な睡眠と覚醒の変化 生活リズムのアセスメントと看護	講義	社会福祉Ⅰ・Ⅱ 関係法規Ⅰ・Ⅱ
7	高齢者の生活機能を整える看護	コミュニケーション 高齢者にみられるコミュニケーション上の特徴と コミュニケーション障害 コミュニケーション能力のアセスメントと状態・状況に 応じた看護	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論 共通看護技術Ⅰ・Ⅱ 看護援助技術Ⅰ～Ⅴ 基礎統合演習
8	福祉用具の活用への援助	エイジレスセンターへの見学(ATC)	演習	専門分野Ⅱ
9	認知機能障害のある 高齢者の看護	認知機能障害のある高齢者の看護 認知症高齢者のリスクマネジメント 認知症ケアと信頼関係構築の実際	講義 演習	老年看護学概論 老年援助論Ⅰ・Ⅱ 成人看護学概論
10	生活の再構築へ向けた看護	地域包括ケアのサービス活用 家族支援・生活支援 退院支援・退院調整への援助	講義	成人援助論Ⅰ～Ⅴ 精神援助論Ⅰ・Ⅱ
11	事例展開②	退院支援・退院調整への援助	講義	統合分野
12	中長期的な療養を必要とする 老年期の対象と家族への援助	認知症高齢者の生活と療養の場における看護 介護老人保健施設・通所施設での看護の役割・機能 地域包括ケアを基盤とした施設での生活への援助	グループワーク	在宅看護概論 在宅援助論Ⅰ～Ⅲ 医療安全
13		在宅復帰に向けた包括的・継続的支援 諸制度の活用とケアマネジメント		看護管理・看護倫理 看護の統合と実践
14		多職種連携と看護の専門性		
15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(7割)、レポート・学習状況(3割:事例展開・ATC見学レポート) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾患編 医学書院 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 医学書院(eナーストレーナー)			

教育内容	専門分野Ⅱ 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	小児看護学概論	単位 1単位	21世紀の小児看護を担う人材として、小児を理解し、複雑化・多様化する小児の健康問題を社会・家族の広い視野から洞察し、こどもの人権尊重を基盤にした小児看護のあり方を学び、小児看護の実践に活かす。		
担当講師	泊 祐子 教育経験:10年以上 臨床経験:3年以上	時間数 30時間			
教育目標	1	生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う			
	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	3	人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	小児看護の理念と対象	子どもとは 小児期の区分・子どもの特性 小児看護の対象 小児看護の目標と役割	講義 演習	基礎分野 心理学
	2	小児医療と小児看護の変遷 小児看護における倫理と 子どもの権利	小児看護の歴史、子ども観の変遷、小児医療の変遷 子どもの権利と歴史の流れ、児童憲章 子どもの権利条約の特徴 子どもの権利を守る倫理 インフォームドアセントとプレパレーション	講義 講義 演習	人間工学 人間関係論 文化社会学
	3	子どもをはぐくむ社会	児童福祉法 母子保健法 母子手帳、発達健康診査、予防接種法	講義 演習	専門基礎分野 公衆衛生学
	4	子どものヘルスプロモーションと 看護	未熟児養育医療 小児慢性疾患特定疾患治療研究事業 学校保健(学校保健安全法 特別支援教育 医療的ケア)	講義 演習	専門分野Ⅰ 看護学概論
	5	子どもの成長・発達と看護 新生児期の成長・発達	成長・発達の一般的原則、発達段階 新生児期の「動く機能」の発達 原始反射、姿勢反射、粗大運動 胎児循環から成人循環	講義 演習	共通看護技術Ⅰ 専門分野Ⅱ
	6	乳児の成長・発達 (メモ:9回目の課題説明)	乳児期の発達課題 ポウルビの愛着理論 乳児期の形態的特徴 身体生理、運動機能、手の巧緻性	講義 演習	統合分野
	7	小児の発達支援1	口腔の発達と食べる機能の発達 排泄機能の発達と睡眠リズム 乳児の1日の生活リズム	講義 演習	
	8	小児の栄養	歯の萌出 発達に応じた小児の栄養(母乳栄養、離乳食)	講義 演習	
	9	幼児の成長・発達	幼児期の発達課題 形態的特徴、感覚・運動・知的機能の発達 ピアジェの認知発達の理論 運動機能の発達による遊びの種類の増加	講義 演習	
	10	学童期の成長・発達と支援	学童期の発達と発達課題 学童期の形態的特徴 仲間づくりと社会性の発達 給食と食物アレルギー 生活習慣と疾病予防	講義 演習	
	11	思春期・青年期の身体的発達の 特徴	思春期・青年期の身体的発達の特徴 自我発達、心理的発達 エリクソンの自我発達理論 不適応行動 性教育、安全教育	講義 演習	
	12	小児の発達支援2	小児の日常生活習慣の確立:食事、着替え、清潔(歯磨き、入浴、排泄)の自立について個人学習してきた記録をもとにGWを行い、授業資料を作成する。	演習	
	13	小児の発達支援4	日常生活習慣の確立に関する担当項目を授業する。	演習	
	14	小児と家族への看護 小児の特徴をふまえた看護	現代家族の問題 家族とは?家族アセスメント 家族発達段階、家族の役割 家族の役割 小児がんと子どもと家族 子どもの病気の受け止め方、子どもの死の概念	講義 演習	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(7割) 課題提出およびグループ発表(3割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 看護のための人間発達学 第5版 医学書院				

教育内容	専門分野Ⅱ 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい					
授業科目	小児援助論Ⅰ	単位 1単位	小児期の特徴的な健康障害について、症状発生のメカニズムや治療を学ぶ					
担当講師	四本 由郁 医師臨床経験:10年以上	時間数 30時間						
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う							
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う							
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目			
	1	小児の病状	呼吸困難・チアノーゼ・ショック	講義	基礎分野 人間工学			
	2		意識障害・けいれん・発熱 など					
	3		嘔吐・下痢・便秘・脱水 浮腫・出血・貧血・発疹・黄疸					
	4	小児の疾患と治療	胎児循環	講義	専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ			
	5		先天異常					
	11		代謝性疾患 内分泌疾患 免疫・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患 感染症 呼吸器疾患 循環器疾患 消化器疾患 血液・造血器疾患 悪性新生物 腎・泌尿器疾患および生殖器疾患 神経疾患 運動器疾患 皮膚疾患・感覚器疾患					
	12		小児外科疾患と治療			良性の疾患(特に腹部の疾患)	講義	専門分野Ⅰ 専門分野Ⅱ 小児援助論Ⅱ 小児援助論Ⅲ
	13					先天性の消化管の疾患		
	14					胆道系の疾患、小児の腫瘍 など (先天性ヘルニア、先天性食道閉鎖症 肥厚性幽門狭窄症、腸閉鎖症、鎖肛 臍帯ヘルニア、腹壁破裂、ヒルシュスプルング病 鼠径ヘルニア、口唇口蓋裂など)		
	15		終講試験			筆記試験		統合分野
	評価方法		筆記試験 (10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする					
	テキスト		系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論					

教育内容	専門分野Ⅱ 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	小児援助論Ⅱ	単位 1単位	健康障害をもつ小児と家族が生活・療養するために必要な看護を学ぶ		
担当講師	山本 亜希子 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を实践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	染色体異常・胎内環境により 発症する先天異常と看護 新生児の看護	出生前 出生後の看護 おもな染色体異常疾患をもつ小児の看護 低体重出生児の看護	講義	基礎分野 専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ
	2	疾患別・状況に応じた看護	代謝性疾患	講義	専門分野Ⅰ 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児援助論Ⅰ 小児援助論Ⅲ
	3		内分泌疾患		
	4		免疫疾患・アレルギー疾患		
	5		感染症(麻疹・風疹など) 呼吸器疾患 循環器疾患 消化器疾患 血液・造血器疾患 悪性新生物 腎・泌尿器及び生殖器疾患 神経疾患 皮膚疾患 耳鼻咽喉疾患 精神疾患 事故・外傷の看護		
	6		健康障害をもつ小児の生活と看護		
	10	症状のある小児への看護	痛み、呼吸器・循環器系の症状、発熱など	講義	
	11				
	12	心身障害のある小児	障害の捉え方、小児、家族の特徴	講義	統合分野
	13		社会的支援		
	14		小児の虐待と看護		
	15	終講試験	筆記試験		
	評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする。			
	テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論			

教育内容	専門分野Ⅱ 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	小児援助論Ⅲ	単位 1単位	小児期にある対象とその家族に必要な看護を理解するために、看護過程展開の技術を身につける		
担当講師	長野 安莉紗 看護師臨床経験:5年以上 教育経験:3年以上	時間数 30時間	事例を通して、特に成長発達と日常生活に視点をおき、情報の整理、看護計画の立案、実施、追加、修正のプロセスを実施することで小児看護に必要な知識・技術・態度を身につける		
教育目標	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	3	人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
	5	社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1 5 10	小児の看護過程の展開	事例展開: ネフローゼ症候群・気管支喘息の子どもと家族 看護過程、情報収集の視点 アセスメント 関連図の書き方 看護問題の抽出 ケアプランの立て方 グループ毎に発表し共通理解をする	講義 グループワーク	基礎分野 心理学 人間関係論 専門基礎分野
	11 14	小児に必要な看護技術	検査・処置を受ける子どもの看護 プレパレーション フィジカルアセスメント バイタルサイン測定 身体測定 子どもの安全 感染予防 点滴管理 ベッド柵の操作 保清 遊び	発表 講義 演習	専門分野Ⅰ 看護学概論 共通看護技術Ⅰ 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児援助論Ⅰ 小児援助論Ⅱ 統合分野
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(5割) 課題提出およびグループワーク発表(5割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論				

教育内容	専門分野Ⅱ 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	母性看護学概論	単位 1単位	母性の概念および特殊性を把握し、母性看護の意義や目的を学び、ライフサイクルを健全に過ごすための看護の機能と役割について学ぶ		
担当講師	増本 綾子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	1	生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う			
	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	3	人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	母性看護の基盤となる概念	母性とは	講義	基礎分野
	2		母子関係と家族発達		心理学
	3		性と生殖 ヘルスプロモーション		教育学
	4		リプロダクティブヘルス/ライツ	講義	人間関係論 文化社会学
	5		母性看護のあり方 母性看護における倫理 安全・事故予防		専門基礎分野 関係法規Ⅰ
	6	母性看護の対象を取り巻く 社会の変遷と現状	母性看護の歴史の変遷と現状	講義	関係法規Ⅱ 公衆衛生学 看護形態機能学 社会福祉Ⅱ
	7		母子保健統計の動向 母性看護に関する組織と法律 母子保健に関連する施策		
	8		母性看護の対象を取り巻く環境	講義	専門分野Ⅰ
	9				看護学概論
	10	母性看護の対象理解	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化		成人看護学概論
	11		女性のライフサイクルと家族	講義	老年看護学概論
	12	女性のライフステージ各期に おける看護	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 思春期の健康と看護 成熟期の健康と看護 更年期の健康と看護 老年期の健康と看護	グループワーク	小児看護学概論 精神看護学概論
	13			講義	専門分野Ⅱ 母性援助論Ⅰ 母性援助論Ⅱ 母性援助論Ⅲ
	14	リプロダクティブヘルスケア	家族計画 性感染症とその予防 HIVに感染した女性に対する看護 人工妊娠中絶と看護 喫煙女性の健康と看護 性暴力を受けた女性に対する看護 児童虐待と看護 国際化社会と看護		統合分野 看護倫理
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(8割) 学習状況(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

教育内容	専門分野Ⅱ 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	母性援助論Ⅰ	単位 1単位	正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解と看護実践能力を養うとともに、ウェルネスの視点で対象に関わり、適切な時期に応じた援助について学ぶ		
担当講師	宮崎 貴子 助産師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間			
教育目標	1	生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う			
	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	3	人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	母性看護の視点 母性の発揮を促す看護	母性看護におけるウェルネスの視点 母性看護の範囲 遺伝相談 不妊治療と看護	講義 講義	基礎分野 心理学 人間関係論
	2	妊娠期における看護	妊娠期の身体的特性 妊娠期の心理・社会的特性	講義	専門基礎分野 解剖生理学Ⅳ 看護形態機能学
	3		妊婦と胎児のアセスメント 妊婦と家族の看護		専門分野Ⅰ 看護学概論 母性看護学概論 母性援助論Ⅱ
	4	分娩期における看護	分娩の要素 分娩の経過	講義	
	5		産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と胎児の健康状態のアセスメント 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント		専門分野Ⅱ
	6		産婦と家族の看護 産婦のニード 安楽な分娩への看護 出産体験が肯定的になるための看護 基本的ニードに関する看護 家族発達への看護		統合分野
	7	産褥期における看護	産褥経過 産褥期の身体的変化、心理社会的変化	講義	
	8		褥婦のアセスメント 産褥経過の診断 産褥経過の診断、産褥の異常と看護		
	9		褥婦と家族の看護 身体機能の回復、進行性変化への看護 児との関係確立への看護		
	10		育児技術に関わる看護 家族関係再構築への看護 施設退院後の看護		
	11	新生児期における看護	新生児の生理 新生児のアセスメント	講義	
	12		新生児の診断 新生児の健康状態のアセスメント		
	13		新生児の看護(新生児の異常と看護) 出生直後～退院までの看護		
	14				
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(8割) 学習状況(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院				

教育内容	専門分野Ⅱ 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	母性援助論Ⅱ	単位 1単位	妊娠・分娩・産褥期の母子に異常を伴った場合の看護について学ぶ		
担当講師	辻本 大治 医師臨床経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う。				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	分娩の歴史 妊娠の異常	ハイリスク妊娠 生活習慣、心理的・社会的因子、体格による影響 既往妊娠分娩歴 妊娠経過中の異常 合併する全身疾患	講義	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論 心と身体の健康Ⅰ
	2		妊娠期の感染症	講義	
	3		妊娠疾患	講義	専門基礎分野
	4		多胎妊娠 妊娠持続期間の異常 異所性妊娠		解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅳ
	5	分娩の異常	産道の異常 娩出力の異常 胎児の異常による分娩障害 胎児の付属物の異常	講義	専門分野Ⅰ 専門分野Ⅱ
	6		胎盤の異常 臍帯の異常 卵膜の異常 羊水の異常 胎児機能不全 分娩時の損傷 分娩第3期及び分娩直後の異常 分娩時異常出血 産科処置と産科手術	講義	統合分野
	7	新生児の異常	新生児仮死 低出生体重児 高ビリルビン血症 新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症	講義	
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院				

教育内容	専門分野Ⅱ 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	母性援助論Ⅲ	単位 1単位	妊産褥婦および新生児に応じた看護が展開できる能力を養う		
担当講師	宮崎 貴子 助産師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間			
教育目標	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
	5 社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容		
	1	母性看護における看護過程とは	母性の看護過程におけるウェルネスの視点とは マタニティサイクルにおける看護過程 母性看護に使われる看護技術	講義	基礎分野 心理学 人間関係論
	2	妊娠期・分娩期・産褥期 新生児期にある対象の 看護過程の展開	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象を理解し、身体的・精神的・社会的側面を考え、情報を整理し、看護計画を立案する	講義	専門基礎分野 専門分野Ⅰ 看護学概論 共通看護技術Ⅰ 看護援助技術Ⅰ
	3	妊娠期の看護過程の展開	※「愛仁」家の事例展開 妊娠期の生理的変化・母性意識の形成・発展に注目して展開	講義	
	4		妊娠期に必要な援助技術 (着帯・レオポルド触診法・骨盤外計測)	演習	専門分野Ⅱ 母性看護学概論
	5		保健指導技術 妊娠期の生活指導(食事・両親学級) 保健指導技術の実際	演習	母性援助論Ⅰ 母性援助論Ⅱ
	6	分娩期の看護過程の展開	分娩期の生理的変化・産婦と家族の心理状態に注目して展開	講義	統合分野
	7		分娩期に必要な援助技術 (疼痛緩和・胎盤計測)	演習	
	8	新生児期の看護過程の展開	新生児期の胎外生活適応状態、生理的特徴、清潔、栄養、養育環境に注目して展開	講義	
	9・10		新生児期に必要な援助技術 (新生児期のフィジカルアセスメント・身体計測・おむつ交換・寝衣交換・沐浴)	演習	
	11	産褥期の看護過程の展開	産褥期の退行性変化、進行性変化、母乳育児、愛着形成、親役割行動に注目して展開	講義	
	12		産褥期に必要な援助技術 (産褥期のフィジカルアセスメント・悪露交換)	演習	
			保健指導技術 産褥期の生活指導	演習	
	13・14		保健指導技術の実際	ロールプレイング	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(6割) 学習状況(4割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程				

教育内容	専門分野Ⅱ 精神看護学	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	精神看護学概論	単位 1単位	人間の心の動きをライフサイクルから見た発達、環境との相互作用から見た適応について学習し、こころの健康問題の発生のプロセスと健康の保持増進のための、看護の役割について学ぶ		
担当講師	長嶺 洋子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間	看護師としての自己理解を深めるとともに、コミュニケーション能力を高める。対象の精神的安寧を保ち、安楽を促進する技術について理解する。		
教育目標	1	生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う			
	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	3	人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	精神の健康と障害	精神の健康とは 日本における自殺問題とメンタルヘルス 日本の精神科医療の現状 精神科医療のニーズ 精神障害の体験と精神看護	講義 講義	基礎分野 心理学 人間関係論 文化社会学
	2		精神の健康とは 精神障害のとらえ方		専門基礎分野 解剖生理学Ⅳ 病態と治療Ⅲ
	3	精神科看護におけるケア	患者-看護師関係について 基本的なコミュニケーション技法	講義	
	4		プロセスレコードによるコミュニケーションの振り返り	演習	
	5	心とは	人間の心のしくみとはたらき ① 人間の心の諸活動と防衛機制	講義	関係法規Ⅰ
	6		② 心理テスト	講義 演習	専門分野Ⅰ 看護学概論 共通看護技術Ⅰ
	7		③ 危機介入とストレス理論	講義	
	8		④ 自己概念と役割	講義	専門分野Ⅱ 成人看護学概論 老年看護学概論
	9	関係の中の個人	全体としての家族 人間と集団の関係と社会病理現象	講義	小児看護学概論 母性看護学概論
	10	看護師としての自己理解	マインドフルネス	講義 演習	精神援助論Ⅰ 精神援助論Ⅱ 精神援助論Ⅲ
	11				
	12	精神的安寧を保つ援助	アロマセラピー ハーブの効力 アロマを用いたハンドマッサージ 他	講義 演習	統合分野
	13				
	14		音楽療法 音楽の効力と音楽療法の実際	講義 演習	
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(8割) 学習状況(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院				

教育内容	専門分野Ⅱ 精神看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	精神援助論Ⅰ	単位 1単位	主な精神疾患と障害の原因・症状・検査・治療、および必要な法制度について学ぶ 精神障害と身体疾患をつなぐリエゾン看護について学ぶ		
担当講師	杉林 稔 医師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	人間の心のはたらきと パーソナリティ	人間の心の諸活動 心のしくみと人格の発達	講義 DVD	基礎分野 心理学 人間関係論 文化社会学
	10	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像 精神障害の診断と分類		専門基礎分野 解剖生理学Ⅳ 病態と治療Ⅲ 関係法規Ⅰ
		精神科での治療	精神科における治療 薬物療法・電気けいれん療法 精神療法 環境療法・社会療法		専門分野Ⅰ 看護学概論
	11	精神障害及び医療の歴史	精神医療の歴史:欧米編 精神障害の歴史:日本編	講義 グループワーク	専門分野Ⅱ 精神看護学概論 精神援助論Ⅱ 精神援助論Ⅲ
	12	精神障害と法制度	精神科医療を支える法律 ① 精神保健福祉法 ② 障害者基本法 ③ 障害者総合支援法 など 精神障害者の生活を支える法律と方法	講義	
	13				
	14	精神科以外での精神看護	身体疾患と精神障害 身体疾患と精神看護	講義	
	15	終講試験	筆記試験		
	評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院			

教育内容	専門分野Ⅱ 精神看護学	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	精神援助論Ⅱ	単位 1単位	精神障害者を理解し、治療的人間関係を学び、精神疾患の症状に対する援助を学ぶ 状態に応じて自立を支援出来るような援助方法を学ぶ		
担当講師	柏原 一江 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	1 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	精神科看護とは	入院治療の特徴 入院環境	講義	基礎分野 心理学 人間関係論 文化社会学
	2	精神科における人間関係	ケアの人間関係		
	4	治療的コミュニケーション	ケアの人間関係 自己理解・他者理解 ケアの原則・方法 コミュニケーション技術 関係をアセスメントする プロセスレコードの活用 プロセスレコードの実際、構成	講義 演習	専門基礎分野 解剖生理学Ⅳ 病態と治療Ⅲ 関係法規Ⅰ 専門分野Ⅰ 看護学概論
	5	人権を守るということ	精神疾患を抱える人の人権を守るということ	講義	専門分野Ⅱ 精神看護学概論
	6	安全を守る	リスクマネジメントの考え方と方法 緊急事態に対処する	講義	精神援助論Ⅰ 精神援助論Ⅲ
	7	身体をケアする	精神科における身体のケア 身体にあらわれるこころの痛み 精神科の治療と身体のケア 日常から気を付けておきたい身体合併症 精神科における身体のケアの実際 睡眠と援助	講義	統合分野
	8				
	9	回復期における治療	精神科リハビリテーション 退院支援	講義	
	10	症状・状態別看護	せん妄状態 認知症の看護 不安、睡眠障害、幻覚、妄想のある患者の看護 強迫性障害、双極性障害、攻撃的行動などの看護 パーソナリティ障害、多飲症、てんかん、混迷 摂食障害、引きこもり状態にある患者の看護	講義	
	14				
	15	終講試験	筆記試験		
	評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院			

教育内容	専門分野Ⅱ 精神看護学	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	精神援助論Ⅲ	単位 1単位	精神障害を持つ対象の状況に応じた看護を展開する能力を養う		
担当講師	長嶺 洋子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	1	生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う			
	3	人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
	5	社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探求し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	精神科における看護過程	オレム・アンダーウツのセルフケア理論とは	講義	基礎分野 心理学
	2	事例展開	情報収集アセスメント	グループワーク	人間関係論
	5		セルフケアレベル こころの発達	グループワーク	文化社会学
	5		サポートシステム 必要な援助	グループワーク	専門基礎分野 解剖生理学Ⅳ 病態と治療Ⅲ
	6		グループワーク発表と意見交換	発表	関係法規Ⅰ
	7	当事者の体験	当事者の体験:アルコール依存症	演習	専門分野Ⅰ 看護学概論
					専門分野Ⅱ 精神看護学概論 精神援助論Ⅰ 精神援助論Ⅱ
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(5割) レポート(5割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院				